

平成28年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第1年次）（概要）

1 研究開発課題名	
－「文化ビジネスエキスパート」グローアップ・カリキュラム－ 地域の魅力や日本の感性をビジネスバリューにつなげ、世界に羽ばたく人材育成プログラムの研究	
2 研究の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪の伝統文化や伝統産業を捉え直し、新しい価値を付与したビジネスにつなげる「文化ビジネス」としてのアプローチ方法とビジネスチャンスを生み出せる人材を育成することを目的とする。 ・グローバルに「文化ビジネス」をプロデュースできる人材育成のため、1年次に「文化ビジネスコーディネーター」、2年次に「文化ビジネスディベロッパー」、3年次に「文化ビジネスプロデューサー」と段階的に発展させ、「文化ビジネスエキスパート」としての人材育成モデルを開発し、地域に貢献し地域を創造する人材の育成を目的とする。 	
3 平成28年度実施規模	
全校生徒を対象に実施した	
4 研究内容	
○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）	
第1年次	1 「文化ビジネスコーディネーター」育成 <ul style="list-style-type: none"> ①諏訪地方の伝統文化と伝統産業について地元産業人による講演会 ②同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授の「京都型ビジネス」の講義 ③「諏訪実ミニメッセ」の開催 ④「文化ビジネスプロジェクト」の企画作り ⑤プレゼンテーション能力の育成 2 「文化ビジネスディベロッパー」育成 <ul style="list-style-type: none"> ①商業・服飾の専門科目の指導内容に対応させながら「文化ビジネス」について学習を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ア 「商品開発とイベント企画」 イ 「地域活性化」 ②「文化ビジネス」向け商品・サービス・イベントの企画・開発案作り 3 「文化ビジネスプロデューサー」育成 <ul style="list-style-type: none"> ①文化ビジネスの要素を取り入れた「諏実ショッパーズ」「キッズビジネスタンスわ」「学習成果発表会」の企画立案・実施を課題研究の授業でおこなう。 ②韓国視察研修を含めたグローバルな情報の発信 ③服飾科における「文化ビジネスプロジェクト」に関する取組 <ul style="list-style-type: none"> ア 「ウォーキング講習会」「照明舞台演出講習会」 イ 「ファッションデザインコンクール」 ウ 「NAGANOデザインフェスタ」 ④英語コミュニケーション能力の向上
第2年次	1 「文化ビジネス」と「伝統的文化や伝統的産業の魅力の理解」 <ul style="list-style-type: none"> ①諏訪地方の伝統文化と伝統産業について地元産業人による講演会

	<p>②同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授の「京都型ビジネス」の講義</p> <p>③「諏訪実ミニメッセ」の開催</p> <p>④「伝統的文化や伝統的産業の魅力」の発表（諏実タウン）</p> <p>2 「文化ビジネス」への取組</p> <p>① 商業・服飾の専門科目の指導内容に対応させながら「文化ビジネスエキスパート」として「文化ビジネス」について学習を進める。</p> <p>ア 「商品開発とイベント企画」</p> <p>イ 「財務諸表からみる企業経営」</p> <p>ウ 「ICTを活用したプロモーション戦略」</p> <p>エ 「伝統工芸と現代工芸」</p> <p>オ 「文化とサービス産業」</p> <p>② 京都視察研修</p> <p>③「文化ビジネスコンペティション」の実施（文化ビジネスプロジェクト）</p> <p>3 「文化ビジネスエキスパート」として、「文化ビジネス」のプロデュース</p> <p>① 商業科・会計情報科・服飾科の連携した企画立案・実施</p> <p>ア 既存の「模擬株式会社S Jカンパニー」を服飾科も含めて立ち上げ直し、「文化ビジネスプロジェクト」を展開し、「文化ビジネス」としての取組の発表の場をプロデュースする。</p> <p>イ 「文化ビジネスプロジェクト」として、「諏実ショッパーズ」「キッズビジネスタウンすわ」「学習成果発表会」の企画立案・実施。</p> <p>② 韓国視察研修を含めたグローバルな情報の発信</p> <p>③「文化ビジネスプロジェクト」に関する取組</p> <p>ア 「ウォーキング講習会」「照明舞台演出講習会」</p> <p>イ 「ファッションデザインコンクール」</p> <p>ウ 「NAGANOデザインフェスタ」</p> <p>エ 「商品開発・イベント企画」</p> <p>オ 「ウェブコンテンツ」の作成</p> <p>④英語コミュニケーション能力の向上</p>
第3年次	<p>1 「文化ビジネス」と「伝統的文化や伝統的産業の魅力の理解」</p> <p>①諏訪地方の伝統文化と伝統産業について地元産業人による講演会</p> <p>②同志社大学大学院ビジネス研究科 村山裕三教授の「京都型ビジネス」の講義</p> <p>③「諏訪実ミニメッセ」の開催</p> <p>④「伝統的文化や伝統的産業の魅力」の発表（諏実タウン）</p> <p>⑤プレゼンテーション能力の育成</p> <p>2 「文化ビジネス」への取組</p> <p>① 校設定科目「文化ビジネス研究」において「文化ビジネスエキスパート」として「文化ビジネス」の学習を進める。</p> <p>ア 「商品開発とイベント企画」</p> <p>イ 「財務諸表からみる企業経営」</p> <p>ウ 「ICTを活用したプロモーション戦略」</p> <p>エ 「伝統工芸と現代工芸」</p>

	<p>オ 「文化とサービス産業」</p> <p>② 京都視察研修</p> <p>③ 「文化ビジネスコンペティション」の実施（文化ビジネスプロジェクト）</p> <p>3 「文化ビジネスエキスパート」として、「文化ビジネス」のプロデュース</p> <p>① 「模擬株式会社S Jカンパニー」により、「文化ビジネスプロジェクト」を展開し、「文化ビジネス」としての取組の場をプロデュースする。「文化ビジネスプロジェクト」として「諏実タウン」「学習成果発表会」の企画立案・実施を課題研究の授業でおこなう。</p> <p>② 韓国視察研修を含めたグローバルな情報の発信</p> <p>③ 「文化ビジネスプロジェクト」に関する取り組み</p> <p>ア 「ウォーキング講習会」「照明舞台演出講習会」</p> <p>イ 「ファッションデザインコンクール」</p> <p>ウ 「NAGANOデザインフェスタ」</p> <p>エ 「商品開発・イベント企画」</p> <p>オ 「ウェブコンテンツ」の作成</p> <p>④ 英語コミュニケーション能力の向上</p>
--	---

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

2年次に学校設定教科「文化ビジネス」とその学校設定科目として「文化ビジネス研究」を設置し、平成29年度入学生から実施する。3年次に学校設定科目「イングリッシュアライブB」商業科・会計情報科2年次に「イングリッシュアライブB」を設置する。

○平成28年度の教育課程の内容（平成28年度教育課程表を含めること）

別紙参照

○具体的な研究事項・活動内容

1 諏訪地方の伝統文化と伝統産業について地元産業人の講演

【目的】

「伝統産業や伝統文化の魅力の理解」を扱い、諏訪の伝統産業や地域文化の魅力と価値について深く理解し、顧客に広く受け入れられる地域資源とするための具体的方策を考え、提案できる力を身に付ける。

【授業】 1年商業科・会計情報科「ビジネス基礎」、服飾科「ファッション造形基礎」「ファッションデザイン」

【講演】

- ・「諏訪の観光産業とおもてなし」 RAKO 華乃井社長 白鳥和美氏 10月18日
- ・「諏訪の信仰と伝統」 八剱神社宮司 宮坂清氏 10月25日
- ・「諏訪の産業とデザイン」 ステデザイナーズエイト 平林善雄氏 11月8日
- ・「地域商品開発」 松本大学教授 白戸洋氏 11月17日

2 京都型ビジネスの講義

【目的】

先駆的な取組である、京都の伝統文化と伝統産業の魅力に新たな付加価値を持たせた「京都型ビジネス」について講義を受け、諏訪地方に適応させる方策を考える力を身に付ける。

【授業】 1年全学年「地理A」「地理B」

【講義】「京都型文化ビジネスについて」 同志社大学大学院教授 村山裕三氏 11月21日

3 諏訪実ミニメッセの実施

【目的】

諏訪地方の地域産業の現状を理解するとともに企業に対する興味を持たせる。また、インターンシップでの学習に向け、企業、働くことの意義などについて理解を深める。

【日時】 8月25日 13:25~15:15

【会場】 諏訪実業高等学校小体育館

【参加生徒】 1年生160名

【実施形態】

参加企業がブースを設置する。生徒は各ブースを訪問し、事業内容、企業理念、製品などについて説明を受け、質問をし、レポート用紙に記入をする。なお、生徒は5つ以上のブースを訪問することを目標とした。

【参加企業】 長野県中小企業家同友会諏訪支部会員企業28社

4 「文化ビジネスプロジェクト」の企画作り

【内容】 諏訪の伝統産業・伝統文化について講演を聴いた1年生が、文化ビジネスの企画を考える。

【授業】 LHR

【実施方法】

4~5人のグループに分かれて企画を考える。

5 プレゼンテーション能力の育成

商業科・会計情報科「情報処理」、服飾科「生活産業情報」の授業で実施

6 商品開発・イベント企画

【目的】

諏訪の伝統産業・伝統文化について、具体的な内容に対応した講師による講義を受けながら、付加価値を探究し、現代社会とコーディネートさせた商品・サービス・イベントの企画開発をおこなう。

【授業】 2年商業科「商品開発」選択者

【内容】

①ジェラート企画

- ・シルク（桑の葉）ジェラート
- ・寒天ジェラート
- ・味噌ジェラート
- ・日本酒ジェラート
- ・新鶴塩羊羹ジェラート

②下諏訪宿集客プロジェクト

- ・外部講師による講演

「長野県と諏訪地域の観光の現状と課題」 RAKO 華乃井社長 白鳥和美氏 11月4日

「下諏訪宿の歴史」 下諏訪倉庫社長 三井章義氏 11月21日

「下諏訪の産業とこれまでの取組」 下諏訪倉庫社長 三井章義氏 11月28日

「下諏訪の観光と新鶴」 下諏訪観光協会会長 河西正一氏 12月12日

- ・生徒による企画提案発表会の実施

③諏訪の街づくりと商品開発

- ・開発商品の試作
- ・開発商品企画のプレゼンテーション

7 京都研修

【目的】

伝統文化や伝統産業に現代の市場において新たな付加価値をつけ流通しようとする「文化ビジネス」の実践を理解する。

【参加生徒】 商業科・会計情報科・服飾科 30名
今後誼実タウン・学習成果発表会でリーダーになる者

【実施期日】 9月15日～17日

【内容】

- ①同志社大学大学院ビジネス研究科にて講義
- ②京都型友禅の体験、京都伝統産業ふれあい館視察
- ③企業視察 京セラ、ワコール
- ④フィールドワーク（京都市内四条通り周辺）

8 誼実タウン

【概要】「誼実ショッピング（販売実習）」と「キッズビジネスタウンすわ（小学生を対象に子供たちの街を作り、社会の仕組みや経営、流通の仕組みを学ばせる実習）」のイベントを総称したもの

【テーマ】 商売繁盛 よいさ!よいさ!!よいさ!!!
お客様だけでなく、実習している生徒も笑顔でイベントをおこない、みんなが幸せになって欲しい、といった願いが込められている。

【実施期日】 12月3日～4日

【授業】 商業科・会計情報科3年生が課題研究の授業を中心に企画・運営をおこなった。

【地域との連携・文化発表】

販売部門では地域の野菜やお菓子を販売し、食堂では地域の食材を使用したメニューを考案した。キッズビジネスタウンでは韓国コーナーを設け、異国文化理解を小学生にも体験してもらうようにした。

9 学習成果発表会

【目的】

専門科学習の成果としての制作作品のステージ発表と、小中学校のものづくり教育に生徒が協力した成果の展示発表により、地域の方に本校の取組の成果を理解していただく。

【実施期日】 1月28日

【授業】 服飾科 課題研究

【内容】韓国視察研修への参加・報告を受けて卒業制作作品に日本文化または異文化、あるいはその両者をデザインに取り入れる。

10 「文化ビジネスプロジェクト」に関する取組 服飾科

- ①「日暮里繊維街 素材リサーチ視察」 12月2日（1年）
- ②「駒ヶ根視察」 久保田織染工業 駒ヶ根シルクミュージアム 12月2日（2年）
- ③「着付け講習会」 講師 着付け師 古田南方美氏 2月24日
- ④「ウォーキング講習会」 講師 b eウォーキングスタジオ 齋藤義人氏
6月23日 7月2日 2月2日
- ⑤「色彩検定対策講座」 講師 A F T認定講師 河合由夏氏 10月13/20/28日 11月4日
- ⑥「デザイン画講座」 講師 杉野服飾大学助教 数井 晴子氏 10月24日
- ⑦「誼訪地方のプライダルの変遷」 ベルファイン橋場 橋場 実氏 12月14日
- ⑧岡学園トータルデザインアカデミー学生制作作品展見学 10月11日 2月18日
- ⑨「照明・舞台演出講習会」 講師 エムプランニング 真島邦昭氏 5月30日

11 韓国視察研修

【目的】

日本の文化との違いを考えることによって異文化理解を深め、諏訪地域の文化の魅力を再発見する機会とグローバルな情報発信の方法を探る。

【参加生徒】 商業科・会計情報科・服飾科計 10 名 諏実タウン・学習成果発表会のリーダー

【実施期日】 8 月 24 日～27 日

【内容】

- ①梅香女子情報高等学校との交流会
- ②本校商業科・服飾科職員による梅香女子情報高等学校との合同授業
- ③ホームステイ
- ④文化視察（MBC ワールド、民俗村）
- ⑤市場調査（南大門市場）

12 パフォーマンス評価研修会

【目的】 ルーブリックの基本や概略、作成方法、評価項目の考え方などを学ぶ。

【日時】 9 月 7 日 15：45～17：45

【講師】 京都大学大学院教育学研究科博士課程後期 福嶋祐貴氏

【内容】 パフォーマンス評価の概要、作成方法、評価項目の考え方

5 研究の成果と課題

○実施による効果とその評価

- ・ 1 年生への講演会は、生徒の地域理解を深化させ、今後の「文化ビジネス」のプランニングの礎となった。
- ・ 諏訪実ミニメッセを通じて、生徒の地元の企業への関心と理解が高まり、今後の取り組みへの基盤となった。
- ・ 2 年「商品開発」の授業で開発したジェラートは、諏訪大社の献上品に指定され、地域振興に貢献する意味での今後のモデルケースとなった。
- ・ 京都研修を通じて生徒は文化ビジネスの意義への理解を深め、今後の活用に向けて活動を継続している。2 学年全体に報告会を開いて内容の共有を図った。
- ・ 韓国視察研修によって生徒は人間的にも成長し、異文化理解が深まるとともに積極性が増し、その後のイベントにおいて優れたリーダーシップが発揮された。3 年生全体に報告会を開いて内容の共有を図った。

○実施上の問題点と今後の課題

- ・ 研究開発の基調をなす「文化ビジネス」のアウトラインを生徒が十分に理解するためには、同志社大学大学院村山裕三教授の講演及び京都視察研修を年度内のより早い時期に行う必要があった。
- ・ 韓国視察研修の内容が「諏実タウン」「学習成果発表会」に有効に反映される方途と取り組みを検討する。
- ・ 「諏実タウン」「学習成果発表会」等において、「文化ビジネス」としての企画という側面をより鮮明に打ち出していく。
- ・ S P H 事業の取り組みの様子の発信には不十分な点があった。ホームページのリニューアルをはじめ情報発信の質と量を高める。
- ・ 「スカイプ」を使った梅香女子情報高等学校との交流をさらに深めていく。
- ・ 1 年目が経過する中で、S P H 事業の目的や目標に対する職員の理解は進んだ。今後は、商業科・服飾科両科の職員及び生徒の一層の連携の推進と協調・協働を仕掛けていくことが課題である。